

目次 CONTENTS

- 特集 |
- 1・2 あなたと大切な人の「もしものとき」のために
 - 3 にいがたCITY NOW
 - 市職員の人事・給与などのあらまし
 - 4
 - 9月議会定例会閉会
 - 八区魅力発見⑩～東区編～
 - 忘れるな拉致県民集会
 - 市長とすまいるトーク
 - 5
 - 弁当で地域のお店を応援
 - にいがた2km
- 連載 輝く高校生



他3ページは区役所だより「情報ひろば」は別冊で発行しています

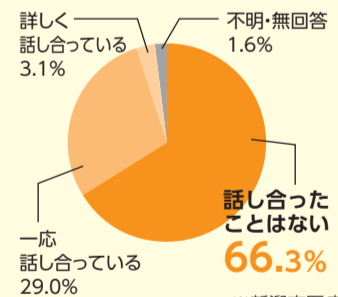
あなたと大切な人の「もしものとき」のために

命に関わる大きな病気やけがなど「もしものとき」に望む医療やケアについて前もって考え、話し合い、共有する取り組みを「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」といいます。今号では、ACPについて詳しく取り上げます。

問 地域医療推進課 (☎025-212-8018)

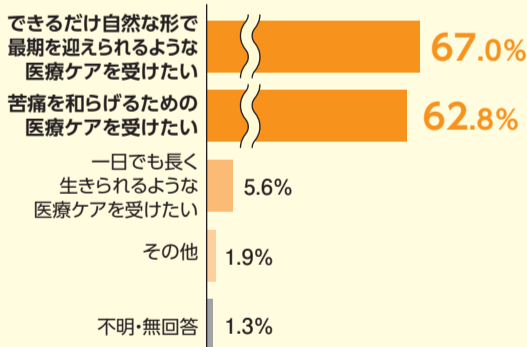


Q ご自身の最期に近い場合に受けた医療や受けてくれない医療について、ご家族等や医療介護関係者とのくらし話し合ったことがありますか？



※新潟市医療に関する意識調査(令和2年9月)より

Q ご自身の最期に近い場合、どのような医療ケアを受けたいですか？(2つまで回答)



医師としては患者さんの意向を最大限尊重したいと考えています。医療の現場では、約7割の人が医療やケアの方針を自分で決めること... (text continues)

本人の希望と実際の医療のミスマッチ

人生の最期を自分らしく

ACPで

このような状況を避けるためには、自分に「もしものこと」が起きたときに受けたい・受けたくない医療や介護などについて、元気な頃から事前に考え、家族や大切な人と話し合い、お互いの思いを共有しておくことが重要です。この考え方を「ACP」といいます。ACPは決して誰かに強制されて行うものではありません。また、「もしものとき」について考えることは必ずしも楽しいことではないかもしれませんが、命に関わる病気やけがをする可能性が必ずあります。いつか必ず来る最期を見据え、「どんな医療やケアを受けたいか」、「自分で意思決定できなくなったら誰に委ねるか」などを考えておくことは、自分の希望に沿った生活を送るためにも大切なことです。さらに、一度決めたらそのままにしておくのではなく、心身の状態に応じて繰り返し考え、周りの人とコミュニケーションを取ることも大事です。人生の最終段階をより自分らしく生きてみるために、ACPについて考えてみませんか。

元気な頃から話し合うことが大切



新潟市民病院 救命救急・循環器病・脳卒中センターセンター長 ひろせ やすお 廣瀬 保夫さん